

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 15 日現在

機関番号：34430

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11233

研究課題名(和文) 中小企業経営者における職業性ストレスの尺度開発と実態解明の研究

研究課題名(英文) Study of the scale development of work stress and the elucidation of the reality for small and medium-sized enterprisemanagers

研究代表者

栗岡 住子(Kurioka, Sumiko)

桃山学院教育大学・人間教育学部・教授

研究者番号：20736516

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は中小企業経営者の職業性ストレスの特性に応じた尺度の開発と評価方法を検討することを目的に、文献検討とインタビュー調査を行い、中小企業経営者のための仕事のストレス調査票案を作成した。本調査票の信頼性・妥当性を検討するために、全国の中小企業経営者を対象にインターネットによる調査を実施した。その結果、仕事のストレス要因として3因子(人材管理、財務管理、業務負荷)と修飾因子(自己効力感、ワーク・ファミリー・コンフリクト、家族と共同経営者の病気、セルフケア、ソーシャルサポート)が抽出され、アウトカム(心理的ストレス、プレゼンティーズム)とも有意な結果であり、信頼性・妥当性が証明された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中小企業経営者は経営責任が個人に集中するために、業務の過重負荷や責任の重さによって職業性ストレスが高いことが考えられるが、その実態は明らかにされていない。近年では従業員に対するメンタルヘルス対策が進んでいるものの、経営者についての法整備がされておらず、自己責任となっている。

今後、経営者に対する対策が必要であると考えられるが、先行研究が少なく調査尺度も一貫性がない。本研究により、我が国における中小企業経営者の職業性ストレスの特性に応じた尺度の開発と評価方法を検討することにより、中小企業経営者の職業性ストレスの実態を解明することができ、メンタルヘルス対策を検討することができる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to examine the development of the questionnaire for SME owners to evaluate their occupational stress. To examine the reliability and validity of the questionnaire, we conducted an Internet survey among SME owners nationwide. As a result, a job stress factors (human resource management, financial management, and workload) and modifying factors (self-efficacy, work-family conflict, family and co-owner illness, self-care, and social support) were identified, and both outcomes (psychological distress and presenteeism) were significant. The reliability and validity of the results were proven.

研究分野：産業ストレス

キーワード：中小企業経営者 職業性ストレス 尺度開発 プレゼンティーズム 心理的ストレス反応 アブセンティーズム ワーク・ファミリー・コンフリクト

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

中小企業経営者は、経営責任が個人に集中するために、業務の過重負荷や責任の重さによって職業性ストレスが高いことが考えられるが、その実態は明らかにされていない。平成 29 年度における我が国の中小企業経営者は 230.9 万人であり、ストレスがあると回答した中小企業経営者は 77.0 % (石埜ら . 2000) と一般の労働者の 58% よりも高い。経営者の自殺者数は年間 1,657 人で、自殺の原因が健康問題と特定された者のうち 60% が精神的な病気であった (警視庁 . 2017)。

このような実態から、中小企業経営者の高い職業性ストレスに対しては、将来的に何らかの対策が必要であると考えられるが、中小企業経営者の職業性ストレスに関する研究はわずかであり (石埜ら . 2009 , 佐野ら . 2012 , Cocker et al . 2013) , 研究ごとに調査項目が異なるため、ストレスの評価が困難である。そのうえ、中小企業経営者は一般の労働者と異なる業務特性があるにも拘らず、先行研究では一般の労働者に対する尺度を用いて調査を行っている (佐野ら . 2012 , Cocker et al . 2013) ため、対策を検討するための基礎データさえもない。

近年では、従業員に対するメンタルヘルス対策の法整備が進んでいるものの、経営者についての法整備や対策は行われておらず、経営者の自己責任となっている。今後、経営者に対するメンタルヘルスケアの自己管理を支援する対策や制度が必要であると考えられるが、先行研究が少なく調査尺度も一貫性がないため、検討すべき基礎データが必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、我が国における中小企業経営者の職業性ストレスの特性に応じた尺度の開発と評価方法を検討することにより、中小企業経営者の職業性ストレスの実態を解明することである。

3. 研究の方法

- 1) 分担研究者の研究データの再解析により、現状分析。
- 2) 系統的文献レビューにより、中小企業経営者の職業性ストレスの特性を把握する。
- 3) 中小企業経営者を対象としたフォーカス・グループ・ディスカッションの実施と分析により、1) 2) のエビデンスの確立と別の特性を抽出。
- 4) 1) ~ 3) に基づき、中小企業経営者の職業性ストレス尺度を開発
- 5) 4) の予備調査の実施により、尺度の修正
- 6) 本調査の実施により、尺度の信頼性妥当性の検討および、中小企業経営者の職業性ストレスの実態把握を行う。

4. 研究成果

- 1) 分担研究者の研究データの再解析により、現状分析
2018 年度に実施した中小企業経営者に対する労働者向けの職業性ストレス尺度を用いた調査分析を行ったところ、仕事のストレス要因の得点は一般の労働者よりも低いにもかかわらず、ストレス反応が高い結果であった。
- 2) 系統的文献レビューにより、中小企業経営者の職業性ストレスの特性を把握する
中小企業経営者のストレス要因としては、経済的問題、社会的孤立、長時間労働、ワークライフバランスの悪さ、慢性的な過重労働と雇用保障の欠如、コミュニケーション不足、仕事と家庭の葛藤 (ワーク・ファミリー・コンフリクト) などが報告されている。さらに、自分の弱さを表現できない、管理職的なイメージ、助けを求めないなど、ストレスレベルを高める行動特性も報告されている。このように、中小企業経営者の職務ストレス要因は、労働者のそれと一部同じであるが、多くの要因において異なっているため、中小企業経営者が経験する職業ストレスを評価するための包括的な尺度が必要であることが示唆された。
- 3) 中小企業経営者を対象としたフォーカス・グループ・ディスカッションの実施と分析
尺度開発のために、本調査結果と系統的文献レビューに基づきインタビュー項目を作成し、2019 年に中小企業経営者 19 人を対象にインタビュー調査を実施した結果、147 コード (10 カテゴリー、31 サブカテゴリー) が抽出された。
- 4) 1) ~ 3) に基づき、中小企業経営者の職業性ストレス尺度を開発
147 コードを NIOSH 職業性ストレスモデルに基づき仕事のストレス要因と修飾要因に整理し、中小企業経営者のための 66 項目の職業性ストレス調査票案を作成した。
- 5) 中小企業経営者のための職業性ストレス調査票の予備調査の実施
2020 年に全国の中小企業経営者 1000 人を対象にインターネットによる予備調査を実施した。その結果、仕事のストレス要因として 3 因子 (人材管理、財務管理、業務負荷) と修

飾因子（自己効力感，ワーク・ファミリー・コンフリクト，家族と共同経営者の病気，セルフケア，ソーシャルサポート）が抽出され，信頼性・妥当性が証明され，アウトカム（心理的ストレス，プレゼンティーズム）とも有意な結果であった．

6) 本調査の実施により尺度の信頼性妥当性の検討および，中小企業経営者の職業性ストレスの実態把握

2021年に本調査を実施した．本調査は1500人を対象にインターネットを使った予備調査を実施した結果，仮説に基づく職務ストレス要因（16項目）と修正要因（20項目）が抽出され，43項目の質問票を作成して，信頼性妥当性が証明された．この横断調査の結果から，中小企業経営者の仕事上のストレス要因は社会経済状況を反映した経営管理に関するストレス（人材管理や財務管理等）であり，中小企業経営者に特有のものであり，従業員の所属組織内における個人のストレス（業務負荷や人間関係等）とは異なっていた．

また，経営者の仕事のストレス要因は，心理的苦痛およびプレゼンティーズムの両方と強い正の相関を示し，修飾因子の役割も明らかになった．具体的には，仕事と家庭の葛藤はプレゼンティーズムと心理的苦痛を増加させ，自己効力感，セルフケア，ソーシャルサポートはプレゼンティーズムと心理的苦痛を減少させた．この知見は，中小企業経営者の心理的ストレスの評価に関する重要な洞察を提供するものであり，この集団におけるメンタルヘルス介入に関する今後の戦略に役立つものであることが示唆された．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 栗岡 住子, 馬ノ段 梨乃, 亀井 克之, 尾久 裕紀, オリヴィエ・トレス	4. 巻 3
2. 論文標題 中小企業経営者の職業性ストレス尺度の開発-インターネットによる予備調査における尺度分析の結果-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 桃山学院教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 29-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Kanami Tsuno, Akihito Shimazu, Katerine Osatuke, Kyoko Shimada, Emiko Ando, Akiomi Inoue, Sumiko Kurioka, Norito Kawakami	4. 巻 64(1)
2. 論文標題 Assessing workplace civility: Validity and 1 year test retest reliability of a Japanese version of the CREW Civility Scale	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Occupational Health	6. 最初と最後の頁 e12332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/1348-9585.12332	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 栗岡 住子, 小田切 優子	4. 巻 28(4)
2. 論文標題 好事例から考える朗働と働き方改革	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 産業ストレス研究	6. 最初と最後の頁 427-433
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井上 由貴子, 中田 光紀, 栗岡 住子, 永田 智久, 森 晃爾	4. 巻 63(4)
2. 論文標題 介護施設従業員における主観的健康感と炎症マーカーの関連	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 産業衛生学雑誌	6. 最初と最後の頁 117-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 馬ノ段梨乃, 栗岡 住子	4. 巻 29(2)
2. 論文標題 中小企業経営者におけるストレス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 産業精神保健	6. 最初と最後の頁 165-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗岡 住子, 亀井 克之, 尾久 裕紀, 馬ノ段 梨乃, オリヴィエ・トレス	4. 巻 2
2. 論文標題 中小企業経営者における職業性ストレス要因の特性 半構造化面接を用いて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 桃山学院教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 48-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 栗岡住子, 花谷隆志	4. 巻 27(4)
2. 論文標題 発達障害を疑う社員に対する仕事を円滑にするための職場での配慮	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 産業ストレス研究	6. 最初と最後の頁 405-410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue A, Tsutsumi A, Eguchi H, Kachi Y, Shimazu A, Miyaki K, Takahashi M, Kurioka S, Enta K, Kosugi Y, Totsuzaki T, Kawakami N	4. 巻 10(8)
2. 論文標題 Workplace social capital and refraining from seeking medical care in Japanese employees: a one-year prospective cohort study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 on line
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iida M, Watanabe K, Ando E, Tsuno K, Inoue A, Kurioka S, Kawakami N	4. 巻 62(5)
2. 論文標題 The association between unit-level workplace social capital and intention to leave among employees in health care settings: a cross-sectional multi-level study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Occupational and Environmental Medicine	6. 最初と最後の頁 e186 - e191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/JOM.0000000000001847	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中小企業経営者における職業性ストレスの実態解明 (第1報)	4. 巻 2
2. 論文標題 栗岡住子, 亀井克之, 尾久裕紀, オリヴィエ・トレス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 桃山学院教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 15 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 栗岡 住子	4. 巻 1
2. 論文標題 職業性ストレスを改善し職場のソーシャルキャピタルを高める教育プログラムの開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 桃山学院教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 59-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 栗岡 住子
2. 発表標題 中小企業経営者の職業性ストレス尺度の開発
3. 学会等名 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 栗岡住子, 馬ノ段梨乃
2. 発表標題 中小企業経営者の職業性ストレス尺度の開発 予備調査結果の報告
3. 学会等名 第95回日本産業衛生学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 栗岡住子, 馬ノ段梨乃
2. 発表標題 コロナ禍における中小企業経営者の精神的健康度に関する調査
3. 学会等名 第29回日本産業ストレス学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 栗岡 住子
2. 発表標題 中小企業経営者における職業性ストレス尺度の開発
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sumiko Kurioka, Katsuyuki Kamei, Hiroki Ogyu, Torres Olivier
2. 発表標題 Comparative study of mental and physical health of female small and medium enterprise owners in relation to smoking behavior in Japan and France
3. 学会等名 13th Asia Pacific Conference on Tobacco or Health(Bangkok) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗岡住子, 馬ノ段梨乃
2. 発表標題 半構造化面接を用いた中小企業経営者における職業性ストレス要因の分析
3. 学会等名 第94回日本産業衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗岡 住子
2. 発表標題 好事例から考える朗働と働き方改革 - 健康経営と働き方改革
3. 学会等名 第28回日本産業ストレス学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 栗岡住子, 亀井克之, 尾久裕紀
2. 発表標題 中小企業経営者における職業性ストレス要因に関する研究 - 半構造化面接を用いて
3. 学会等名 第28回日本産業ストレス学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 栗岡 住子
2. 発表標題 中小企業経営者の職業性ストレスの実態 般労働者との比較 (第1報)
3. 学会等名 第93回日本産業衛生学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上由貴子, 中田光紀, 栗岡住子, 永田智久, 森晃爾
2. 発表標題 主観的健康感の良否はInterleukin (IL)-6と関連するか? -主観的健康感の4指標を用いた群間比較-
3. 学会等名 第93回日本産業衛生学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯田真子, 井上彰臣, 津野香奈美, 安藤給美子, 栗岡住子, 川上憲人
2. 発表標題 職業性ストレス要因が仕事の生産性に与える影響: 前向きコホート研究
3. 学会等名 第62回日本産業衛生学会(名古屋)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 栗岡 住子
2. 発表標題 発達障害の特徴と職場における対応 産業看護職としての対応
3. 学会等名 第92回日本産業衛生学会シンポジウム9(名古屋)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上由貴子, 中田光紀, 栗岡住子, 永田智久, 森晃爾
2. 発表標題 介護関連職員における主観的健康感と炎症マーカーの関連
3. 学会等名 第62回日本産業衛生学会(名古屋)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 栗岡 住子, 萩原明人, 野田龍也, 入谷智子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 株式会社ERP	5. 総ページ数 127
3. 書名 わかりやすい公衆衛生学入門	

1. 著者名 栗岡 住子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 216
3. 書名 すぐに役立つ 職場のメンタルヘルスハンドブック	

1. 著者名 栗岡 住子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 372
3. 書名 メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト 種 ラインケアコース	

1. 著者名 栗岡 住子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 184
3. 書名 メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト 種 セルフケアコース	

1. 著者名 栗岡 住子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 464
3. 書名 メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト 種 マスターコース	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	亀井 克之 (Kamei Katsuyuki) (10268328)	関西大学・社会安全学部・教授 (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
フランス	モンペリエ大学	AMAROK (中小企業経営者健康問題支援機構)	